

【器械運動領域授業研究会】

参加者：鳥取市 5 名 八頭郡 2 名 岩美郡：5 名

指導助言：鳥取県教育委員会体育保健課 綱本大介 指導主事



○協議の柱

「ねらいを達成するための効果的な指導であったか」

「『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けた学びになっていたか」

○成果

- ・ICT(動画撮影、遅延ソフト)を活用する場面を設けることで、繰り返し自分の技を確認し、達成度や課題をつかむことができた。また、友達の技を見て、アドバイスをする機会が増えた。
→目的をはっきりした上で、使いこなせるようにしなければならない。
- ・教師の意図として、全員がいろいろな技に挑戦できるように学習を組んだ。そのことで全ての児童が中学年で学ぶ基本技を経験することができた。基本技を経験することで学年が上がったときに、技の系統を意識して学習に臨むことができると考える。多様な動きを経験しておくは、とても大切だと感じた。
- ・単元計画では、授業の終わりには毎時間、本時で学習した技を組み合わせる時間を設定することで単元を通して組み合わせを意識することができた。
- ・技の系統表を、岩美郡独自で作成した。子どもたちが、技の系統を意識して運動したり、技のコツを掲示したりすることで共有することができた。

○課題

- ・指導と評価の一体化
→本時のねらいと子供に提示したためあて、評価にずれが見られた。ねらいを明確にすることで、教師の声かけが変わってくる。技能なら、「どこがよかった」思考・判断・表現なら「どんなふうアドバイスしたらよい」など。また、評価の視点も変わってくる。目標、めあて、評価をそろえるようにしていく。
- ・児童の伝え合いの活発化
→学習指導要領に書いてある技のポイントを教師は明確にしておくことが必要である。児童とともに技のポイントを共有していき、児童が技のポイントにそって友達とアドバイスをし合うことで話し合いが活発になっていくと考える。知識と技能は離れてはいけない。
- ・「わたしたちの体育」の活用
→掲示や振り返りだけではなく、「わたしたちの体育」を開く時間があってもよかった。側においておき活用していくなど、「わたしたちの体育」を使った実践を考えていきたい。